
鬼神

せんとくん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鬼神

【Zコード】

Z4912Z

【作者名】

せんとくん

【あらすじ】

人を食らう巨大生物、激しい気候、貧しい文明。
しかし、戦争はなかつた。人と人との争いはなかつた。

機械仕掛けの『鬼』が現れるまでは

少年は死が迫つてくるのを感じた。

12、3歳ぐらいだろう。まだ幼さを残した顔は恐怖でひきつり、涙と鼻水でぐしゃぐしゃになつてゐる。少年は木の影にうずくまり、遊び半分でこの森に踏み込んだことを、ただただ後悔していた。後悔以外にできることがなかつた。

背後からは地面に落ちた小枝が折れる乾いた音が、片時も途切れることなく聞こえてくる。そしてそれは確実に彼の方に近づきつつあつた。徐々に大きくなる死神の足音に、彼は一層体を小さく丸め、汚れぼつれた着物の端を握りしめた。すでに辺りは喧騒が支配している。何かが這いする音以外、何も聞こえない。

突然、少年の全身に衝撃が走つた。全身が硬直し、一瞬思考が停止する。振り向いて、彼は危うく意識を手放しそうになつた。彼が身を隠していた大木に、クワガタのような大顎が突き立てられる。それは万力のように徐々に、しかし力を緩めることなく木を締め上げてゆく。数秒後、断末魔の悲鳴とともに少年を守る唯一の砦はへし折れた。

それはまさしく怪物であつた。ぬらぬらと黒光りする甲殻、せわしなく動き続ける無数の足、毒々しい朱色の頭。ムカデ。姿こそ地べたを這いすり、人に踏みつぶされる虫けらと変わりない。違いはその5メートルはあるうかという巨躯のみだ。ただそれだけの要因で人と虫との立場は入れ替わる。人は殺され、食らわれる。

少年は自分の下半身が生暖かい液体で濡れるのを感じた。腰が抜け、逃げることもままならない。彼は断頭台に立つ罪人となんら変わりなかつた。ギロチンが振り下ろされるまで、泣いて祈ることしか許されない。

突如、爆音とともに大ムカデは吹っ飛び、地面に転がつた。べたべたとした体液が辺りに飛び散る。ムカデの胴体は中ほどから千切れ飛んでいた。頑強な甲殻は無残に焼け焦げ、中身がむき出しになつていて、事態を全く呑み込めていない少年が次に見た者は、茂みから飛び出した巨人だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4912z/>

鬼神

2011年12月16日19時53分発行